

北國の春

結城哀草果

水上みづかみは雪光る山をたふはり川波しろくをきき來
るみゆ

霜相柱しもばしらひかる壇土はにつちにいとけふき落ふきのたう臺たいくろくいた
みけるかふ

雪解とくる下よりををに土乾く埃ほこりをあげて風の吹
きたつ

もろもろの木立芽ふかぬ庭みれば池のほとりに
馬酔木あしひさかゆる

庭梅にわづか風ふき香にたてり月のひかりはふ
けて明るく

口笛くちぶえに軍歌ふきつつ兵二人草土とこを遠とこざ
かりけり